

R 8 . 4 . 1 5

第3号

通巻 167 号

# 学院通信

発行  
金光学院  
719-0111  
岡山県浅口市  
金光町大谷 1486  
TEL (0865) 42-3115  
FAX (0865) 42-3114



直信教会参拝 (笠岡教会)

## 教祖様のご信心に依って

学院長 大代 信治



学院は、本部広前の御取次を仰ぎ、生活の起居一切を修行とし、信行にいそしみ学行につとめて、道の教師としての生き方を身に付けることを願っています。学院生は互いに励まし合い支え合って、日々、日課に取り組んできました。

天地には境目がなく、あらゆるものを生かし育み、隔てなく大切になさっている働きがあります。その天地のお心のままに、隔てのない祈りを頂こうとするとき、私とは何かと問われるように思います。このお道においては、氏子あつての神神あつての氏子と教えられ、一人ひとりの氏子の生き方、いのちに神様が現われなさり、神人あいよかけよの道といわれる大切なところと頂きます。

この神様は昔からあつた神様ですが、神様は教祖様に対して、「此方金光大神あつて神は世に出た」と仰せになりました。そして、教祖様は、「此方がおかげの受けはじめである。みんなもそのとおりにおかげが受けられるぞ」とも教えられています。

学院での修行を進めるにしたがつて、自らの心にあるこだわりや決め事、欲や我を見つめ、「神に心を向ける」、「神の願いに生きる」という信行目標をもとに、「終生道の御用に立たしめ給わんことを祈りまつる」願いがいよいよ自らに迫ってくるのです。

そうして、御取次の働きの中で、教祖様が教えてくださる天地の道理を理解し、神様のお働きをわずかでも実感でき、わが心で神様に出会い、さらには神様と共に生きるという生き方へといざなわれてきたことでしょうか。

それは、自分のいのちが初めて神様と出会う経験ですし、神様が現われなさるといふことでもあつたらうかと思えます。私たち一人ひとりと神様の関わりによって、自分自身が感じる生きた神様です。修行中に仲間を通して現われてくださった神様も、その人自身が感じた神様であり、思いもよらないお働きに感無量なこともあつたことでしょう。

同じ神様を頂く者同士が、互いの信心を認め合うとき、より大きく広く神様が現われてくださり、神の氏子として、さらには神様の願いに生きる道の教師としての喜びも共有できると思います。学院を卒業して互いの御用の場が離れていても、教祖様のご信心に依ってこの神様を共に頂き、お役に立とうとするつながりはいっそうに強くなっていくことでしょうか。

# ご卒業おめでとう

## 先輩諸師からのごことば

お徳を頂いて



長光寺 愛媛県  
日吉 秦正光師

皆さんには昨年の春、道の教師を志して、金光学院に入学され、金光様のお徳の中、学院長先生をはじめ学院職員、諸先生方のご指導の下、本部広前の御取次を頂きつつ、金光大神様の信心の理解に努め、教師としての基礎を身に付けるため、学行に、日々の修行生活に励まれ、この度学院をご卒業のこと、誠にありがたきおめでとうございます。

また、私にとっても孫が本部広前の修行生として、皆様の仲間であることも嬉しく思わせていただいています。皆さんはこれから、それぞれ布教の第一線に出られますが、実際に布教にあたられますと、困難に直面したり、



壁にぶつかり先々に不安を感じることもあるかと思えます。そのような時は、十一カ月間、本部広前の修行生として過ごされたご霊地があります。ご霊地のお徳の中で真の道を頂き、お徳を頂いて、また新たな気持ちで布教の第一線に戻っていかれ、ここからの一歩一歩を大切に、生涯かけて、ご神願成就のお役に立たせていただきましょう。



修徳殿入殿

改めて、ご卒業おめでとうございませう。

何なりとも実意をもって願え

十五年前、在籍外教会実習で三重県内に滞在していた学院生たちと懇談する機会がありました。彼らが帰院して間もなく、東日本大震災が起こりました。卒業を目前にして、これから出ていく社会が一変してしまっただけ——そのことに彼らが動揺してはいないだろうか。そう案じた私は手紙を書きました。

数日後に届いた返信には、被災地出身の同期生もいる中で、自分たちはどうすればよいのかを皆で自問しているとありました。彼もまた居ても立ってもおられず、五代金光様にお取次を願ったそうです。そのとき、彼が五代金光様から頂いたみ教えが、「氏子何なりとも実意をもって願え」だったので。



三重県 伊勢教会長  
高阪健太郎師

私は、金光様の並外れたご平常心に畏れ入ると同時に、それが私自身に頂いたお言葉でもあるように思えたのです。

### どんな道を選ぶほうとも



令和6年度卒業生  
東京都 新宿教会  
岸井祐貴師

みなさんがこれから教師として御用にお使いいただく中で、教会の内外に心穏やかならぬことも多々あるかと思えます。しかし、どのようなときでも「何なりとも実意をもって願え」。その御心をともに歩まれるならば、道は開けていくものと信じます。

ご卒業おめでとうございます。

ご卒業おめでとうございます。OBとして御用させて頂いた際に当たり、本年度の学院生の入学者数を聞いたとき、正直、自分だったら体がもたないと思いました。十一カ月が経った今、全員そろって卒業されましたことは、本当にすごいと思わせていただいております。

一方で、このお道の教師としての御用はここから始まります。私は卒業して改めて、ご霊地という環境や先生方、同期生に助けられていたと感じました。



御神米調整実習

教師としてうまくいかない事が多々あり、ふがいない自分と向き合う機会がたくさんありました。しかし、そのような自分にあっても、ありがたいと心から実感する事柄が起き、日常の見え方や感じ方が少しずつ変化しています。また、取次者としてお結界に座らせてもらった際には、祈るしかない中で、その後立ち行く様を見る事ができ、神様の計り知れない大きさを感じています。

みなさんはどのような教師になりたいでしょうか。どんな道を選ぶようとも神様に心を向けて取り組む限り、神様によいようにしていただけたらと思います。神様は常に見守ってくださいるので、

私は学院での毎日がとても楽しく有難くて、「こんなにも有難い毎日を過ごさせてもらっているのに神様に何も恩返しがさせていただけいてません。こんな自分で良いのでしょうか」と、金光様にお届けをさせてもらったことがあります。金光様は「その有難いという気持ちで神様への一番のご恩返しです」とのお言葉をお下げくださいまし

ご卒業、誠にありがとうございます。この十一カ月間、皆様が心も身体も健康で無事に過ごさせていただけましたようにと強く願っております。この度、全員揃ってのご卒業、大変嬉しく思うと同時に感動しております。



令和6年度卒業生  
北海道教会  
稚内教区  
中村志保師

立ち返るところ

現時点で何をなしたいか決まっていな人も、安心して目の前のことに取り組んでほしいと思います。皆さんの健康とこれからの活躍を願っています。改めて、ご卒業おめでとうございます。



教話実習

しかし、いざ学院を卒業してみると、人間心が増えていき、日々の生活を有難いと思うことが難しくなってしまう。その時にいつも私を励ましてくれるのは、金光様から下げられたお言葉であり、学院の時に見た景色や感じた心、先生や同期生の言葉など、思い出の数々です。学院での経験が原点となり、いつも私を立ち返らせてくれます。

これからは皆様それぞれの持ち場立場で御用されることと思いますが、どうぞこの十一カ月間、霊地で過ごさせていただいた経験を大切に、共に神様に使っていただける私たちでありたいと願っております。

15	4月	卒業証書授与式
13	12	身辺整理・大掃除
14	4/6	学院・天地金乃神大祭
26	24	天地金乃神大祭御用奉仕
23	23	学院・春季霊祭
16	23	第三信心レポート懇談
11	16	邑久光明園訪問(自主活動)
11	11	第三回 修徳殿入殿
20	8	講堂障子張り替え
13	3/3	在籍外教実習
13	3/3	礼典実習
12	12	教庁見学
11	11	第三回 部屋替え
6	6	他宗教研修 (立正佼成会 倉敷教会)
2	2	御神米調整実習
27	27	他宗教研修 (井山宝福寺)
14	14	直信教会参拝
12	12	第六回 求道の日
8	8	教典研究 研究発表
5	5	教話実習②
31	5	実践課題設定週間
30	31	第五回 求道の日
29	30	年頭御用奉仕
29	29	大掃除
	29	帰院式

日程

(冬期在籍教会実習後から卒業まで)

# 学院生活を振り返って 学院生の 声!

終わりをければ全てよし

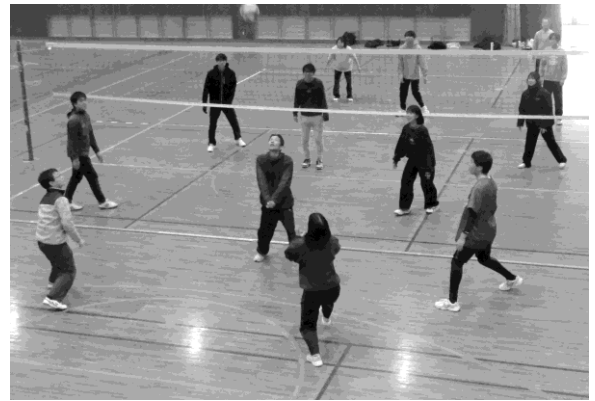


愛知県・金城教会  
田邊 都

在籍教会の親先生に誘われて、学院がどういふ所か全く知らないのに勢いだけで入学してしまった私は、入寮して一日目で「なぜ来てしまったのか」と激しく後悔しました。教会の子弟で



年頭御用奉仕



自主活動・スポーツ大会

はない私にとって、学院は別世界で、慣れないことばかりで何度も逃げ出そうと思いましたが。また、私が知っている金光教とは異なる部分もあって、そのギャップに疑問を感じることもたくさんありました。学院生活の中で様々な考え方に触れてきた今、自分の信心の方向性がどちらに向くべきか定まらな気がします。学院に来て一番ありがたかったことは人との縁に恵まれたことです。人付き合いに不安を感じていましたが、ここで関わらせていただいた方達が優しく接して下さったおかげで、あんなに嫌だった学院生活が、

気付いたら「卒業するのが寂しい」と思うようになっていました。学院での生活は私にたくさん経験と出会いを与えてくれました。「来て良かった」と心の底から思っています。

## 無言の教導



福岡県・筑紫本郷教会  
安武 大幹

学院生は、毎月十日と二十二日の御本部の月例祭に参拝させていただきました。私にとって、本部広前で教主金光様が祭主を仕えられる祭典に参拝させていただくことは、大変新鮮で、不思議な感覚でお広前に座っておりました。更に不思議なこと、ほぼ毎回と言っていいほど、金光様の祭詞奏上を頂くと心がグラグラと揺れ動く感じがして、天地書附奉体からは、声が震え、涙があふれそうになって、ともに拝詞をあげられないことがありました。

一体、私は何に感動しているのか。教主金光様の祈りの深さを感じたからなのか、神様に触れたからなのか、理由は未だにわかりませんが、確かなのは「今日も頑張ろう」という生きる活力と「こんな祭典を仕えられる方の御取次を頂きたい」という願いが湧いてくるということです。

祭典は「無言の教導」といいますが、祭典が人を和賀心にし、取次を仰ぐという助かりの道筋の起点になることを教えていただきました。

このような心で祭典を頂けることに御礼を申し、私もそのような御用をできる限りにさせていただきます。思っております。



奉幣の組み立て

# いままでの歩み

## ■他宗教研修(井山宝福寺、立正佼成会)

他宗教研修として、一月十四日に臨濟宗井山宝福寺、二月六日に在家仏教教団である立正佼成会の倉敷教会を訪問した。宝福寺では、法話、座禅修行、作務など、寒中に伝統的な仏教の修行を体験した。立正佼成会倉敷教会では、会員お二人の体験説法を聴かせていただき、その後、車座になりそれぞれの悩みや問題を分かち合い、信仰的な受け止め方を語り合う法座も体験させて



井山宝福寺・座禅

いただいた。最後には、教会長が学院生それぞれの質問に対して、ご自身の信仰的な体験も踏まえて丁寧にお話しくだされた。これらの研修を通じて、違う宗派の実際に触れ、広く宗教の働きや役割を理解することができた。そして、今までは違った視点で自らの使命と役割を見つめ直す機会ともなった。また、多くの方から、学院生へ期待と励ましの言葉を頂き、大変ありがたいことであった。



立正佼成会(倉敷教会)・法座

## ■直信教会参拝

教師養成機関の創設記念の行事として、一月二十七日に、直信教会参拝と



六条院教会・旧広前



芸備教会・神徳書院

して、斎藤重右衛門師が開かれた笠岡教会、佐藤範雄師が開かれた芸備教会、高橋富枝師が開かれた六条院教会へ巡拝した。それぞれのお広前では、ご祈

念、お届けの後、教会長より、初代にまつわる教話を拝聴し、直信の先生方が実際に御用に当たられた地を訪れ、教祖様ご在世中から道開きに尽力された先生方の熱い思いやご苦勞に思いを馳せることとなった。  
また、道中には、教祖様が厄晴れ祈願に参拝し、佐藤範雄師が本教独立を願って訪れた沼名前神社にも参拝した。



沼名前神社

## ■礼典実習

礼典実習では、「祭式」及び「祭詞」の授業で習得した基礎的内容をもとに、葬儀式、五十日祭並びに合祀祭、結婚式、地鎮祭の各諸祭を、乾物、野菜、果物などを調饌し、実際に祭服を着て祭員を務め、本番

に近い形で執り行った。各諸祭の意味合いや次第を改めて確認し、実際の設えを時間内に皆で分担してすることができた。また、全員がいずれかの諸祭で祭主を務め、自らが起草、浄書した祭詞を奏上する貴重な機会ともなった。卒業後の御用も念頭に、それぞれが真剣に実習に取り組むことができた。



礼典実習・終祭

■在籍外教会実習

在籍外教会実習(二月二十日〜三月三日)は、本部広前の修行生として、在籍教会以外の教会活動の実際に加わり、教会長の信心や教会現場の布教姿勢に触れることを通して、これまで培った自らの信心・求道姿勢を吟味し、自己の役割を明確にしていくことを願

いとして実施している。

学院生は、緊張した面持ちでそれぞれの実習先へ出発したが、教会長先生のご教導のもと、教会現場での信心に触れ、布教の実際を見させていただく中で、多くのことを学び、様々な気付きや示唆を得ることができた。

■邑久光明園訪問(自主活動)

ハンセン病を正しく理解し、教師を志す者として、人間のあらゆる問題を信心の目で洞察することの大切さを学ぶことを願いとして、三月十六日、自主活動として国立療養所邑久光明園を訪問した。

園に到着後、園内で亡くなられた方々の納骨堂でご祈念をし、園内でお道の信心を続けてこられた金光教求信会のお広前を参拝した。その後、お広前で求信会の榎本初子さんから、自身のこれまでの歩みと現在の心境について聴かせていただき、それぞれが、深く考えさせられた。

午後には、園内の研修室で、青木美憲園長から、ハンセン病の正しい知識と、差別や偏見から誤った隔離政策を続けてきた負の歴史についてご講義い



邑久光明園・金光教求信会のお広前

ただいた。特にハンセン病の問題は我々一人ひとりの心の問題であり、ハンセン病の負の歴史を絶対に繰り返してはならないという話は我々にとっても大切なことだと感じた。大切な学びを得ることができ、来年度以降も継続していきたくないと願っている。

■学院春季霊祭・天地金乃神大祭

本部広前のご比礼を受け、学院広前において、三月二十四日に春季霊祭が、四月十二日に天地金乃神大祭が執り行われた。

これらの祭典は、神様と、学院霊舎に祀られている物故職員と学院生を合



春季霊祭・開帳

わせた二百三十七柱の霊神様のお働きを受け、ここまでの学院修行を進められてきたことへのお礼と真心を現す祭典として奉仕される。

学院生達は、入学以来学んできたものを活かし祭員や祭詞の起草・浄書、神饌物の調饌、奏楽等の御用に真心を込めて取り組み、卒業後のそれぞれの道立てと御用成就をお願いさせていただいた。



天地金乃神大祭・献饌